

熊本、大分 首相が視察

安倍晋三首相は4日、熊



本地震の影響で観光客が減った大分県別府市と、被災した熊本県益城、御船、嘉島3町を視察した。被災地視察は4月29日以来3回目。益城町で報道陣の取材に応じ、「自治体の財政状況に丁寧な目配りをし、必要な支援をしっかりと行ってきたい。安心して事業に取り組んでほしい」と述べた。

首相は午前中に自衛隊機で大分県入り。別府市の鉄輪温泉やJR別府駅前の商店街を訪れ、地震による風評被害で客足が減っている土産物店などを視察した。

大型商業施設「トキハ別府店」では広瀬勝貞知事や別府、由布両市長、観光関係者らと意見交換。首相は補正予算に盛り込んだ旅行券などを説明した上で「観光客が激減し、深刻な被害が出ていると聞いている。大分、九州は観光立国・日本の柱。国も全面的に応援していく」と力を込めた。

午後は55人が身を寄せている熊本県御船町の避難所を訪問し、避難者を励ました。益城町では仮設住宅の建設工事現場を見学。「熊本県内では2500戸を超える仮設住宅を建設中。梅雨入りした中で一日も早く移っていただけるよう、県や市町村と力を合わせて進めていきたい」と強調した。

(清水恵美子、原田克美)

(西日本新聞 2016. 6. 5 刊)